



北の森林^も 国有林^り



写真：上ホロカメットク山（手前）と富良野岳（右奥）

今月のトピック
国有林モニター現地見学会の開催



国民の森林・国有林

林野庁北海道森林管理局

国有林モニター―現地見学会の開催

企画課

北海道森林管理局では、国有林野の管理・経営に国民の皆さまの意見・要望を活かすことにより、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理・経営を行うことを目的として、

一般の方から国有林モニターを公募しています。

モニターの方には、2年間の任期の間に、国有林についての情報提供や



モニター会議の様子（昨年7月）

イベントの案内等をするなど、国有林野事業についての理解を深めていただくとともに、アンケートへの協力やモニター会議への出席などをお願いしています。

現在は、平成28年4月から平成30年3月までの2年間、道内にお住まいの48名の方にモニターをお願いしています。平均年齢は56.6歳で、年齢層は20代から80代まで幅広く、職業も様々な方々です。このように、立場も経験も異なる方々に、森林や国有林に関心を持っていただけることは大変うれしいことと考えております。

平成29年度現地見学会

国有林モニター活動の一環として毎年現地見学会を実施していますが、今年度は、災害と防災に焦点を当てました。理由は、昨年の台風により、全道各地で未曾有の被害を受け、森林でも、木々が倒れ、林道や治山施設も多数壊れたことを踏まえ、近年の災害の状況と、災害からの復旧や防災の取組みを見ていただきました。と考えたためです。

この両方を見られる場所として、胆振東部森林管理署管内での見学を企画しました。

7月1日の現地見学会には、22名の方々にご参加いただきました。



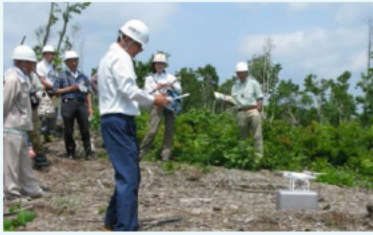
風倒被害地の様子。根こそぎ倒れた木も。

当日は、集合場所の苫小牧駅から風倒跡地へ移動するあいだ、小澤総務企画部長の挨拶に続き、小向胆振東部森林管理署長が管内の概要や車窓から見える風倒の被害状況について説明しました。

① 風倒被害地

一箇所目の見学地、風倒被害現場では胆振東部署の平尾総括森林整備官から、平成27年の低気圧による被害の概況と現在の復旧の取組等について説明を行いました。

風倒によって発生した倒木が木質バイオマスの燃料として利用され、現地では植栽や天然更新に



ドローンによる被災地の確認

よる森林の再生が図られていることを見ていただきました。

併せて、被害地の調査方法の説明とともに、GPSやドローン、輪尺などの道具を使って調査のデモンストラーションを行いました。

② 治山事業実施箇所

二箇所目の見学地の樽前山麓の覚生川（おぼっぴがわ）上流部の治山事業実施箇所です。平井総括治山技術官等から、施設の目的や工事の内容等について説明しました。樽前山は道内に9つある常時観測火山の一つで、噴火時の泥流等によ



覚生川上流部の治山施設見学



ダムによる効果の説明

る被害を軽減するためにダムを設置していることを説明しました。

③ 見学会を通じて

二箇所目の見学をおえた質問の時間では、ダムの工法やダム周辺の緑化について、設計や工事の発注など、様々な視点から質問が寄せられ、森林に対する見方や関心は多様であることに改めて気づかされました。

また、現地見学会に参加された方々に後日お願いしたアンケートでは、今回の内容は回答いただいた21名の皆様全員から「良かった」との評価をいただき、「国有林モニ

ターになったおかげで普通では見ることができない箇所を見られて有意

「被災の広大さに驚いた」、「被害調査にかかるとのコメントが寄せられました。治山事業実施箇所では、「治山ダムを初めて間近に見た」、「ダムを国有林で造っていることを初めて知った」とのコメントがありました。

現地見学会終了後の7月上旬に九州北部豪雨災害があり、「森林づくりの大切さを痛感した」と



平成27年の低気圧による風倒被害現場

いうコメントもいただきました。

来年度に向けて

来年度4月からの国有林モニターは、今年の12月頃に公募を予定しております。是非、国有林モニターにご応募いただき皆様のご意見を伺いたいと思います。

国有林モニターの公募は、北海道森林管理局の広報誌やホームページ及び市町村の広報誌などでお知らせを予定しています。



モニターの皆さんと記念写真

低コストで効率的な施業の推進

地域林政課題の解決に向けた取組

十勝東部森林管理署

十勝管内の一般民有林における人工林の面積割合は約5割に達し、人工林の成長過程で必要となる「間伐」作業を、安全にかついかに低コストで効率的に進めていくかが重要な課題となっています。

十勝総合振興局との取組

平成25年度から十勝管内の3つの森林管理署・支署と十勝総合振興局とで連携して「十勝地域林政連絡会議」を立ち上げ、地域課題の解決に向けた取り組みを行っています。

当署では、国有林で積極的に取り組んでいる「列状間伐」の普及と推進に向けた取り組みを平成26年度から進めています。

十勝管内の一般民有林においては、優良木の生産や

風倒被害への懸念から定性間伐が多い現状にあり、列状間伐の安全で低コストな伐採作業に資するメリットが知られていませんでした。



振興局と列状間伐の現地検討

そこで、「十勝地域林政連絡会議」の中で現地検討会を開催し、列状間伐のメリットについて情報共有を図り、その翌年には振興局主催の現地研修会で一般民有林所有者等を対象に普

及、啓発を図りました。

実際に、豊頃町の道有林において初めて2回目列状間伐が行われた箇所では、間伐直後である平成27年10月の暴風雨でも、被害は見られませんでした。

このほか更なる低コストで効率的な施業の取組を紹介してほしいとの振興局からの要望を踏まえ、27年度からはコンテナ苗植栽箇所及び丈夫かつ安価になるように工夫した森林作業道の作設箇所現地検討会を開催し、意見交換、情報発信を行っています。

平成28年度には国有林が所在していない池田町において、町が町有林でコンテナ苗を試験植栽する際に、技術的な支援として、コンテナ苗の特徴と植付器具の扱い方を説明しました。



コンテナ苗の試験植栽支援

今年度の取組

昨年度は立て続けに来襲した台風被害のため、計画していた現地検討会を開催できませんでした。

今年度は伐採・造林事業の一括発注により、伐採で使用した大型機械を造林事業でも活用して、造林経費削減、作業効率向上を図る「一貫作業システム」の現地検討会を開催し、理解と



融雪と台風通過後の森林作業道

普及に努めています。引き続き、十勝総合振興局と連携し「列状間伐」、「丈夫で安価な森林作業道」の一般民有林への普及を目指した情報発信についても取り組んでいきたいと考えています。





センター通信

森林技術・支援センター



森林技術・支援センターでは、森林・林業の技術開発のため、各種の実証事業にチャレンジしています。

今回は、「北海道型作業システムを踏まえた路網作設に伴う林業生産コスト低減の検証」について紹介します。

課題を取り上げた背景

林業の収益性向上のための方策の1つに、素材（丸太）生産事業における労働生産性の向上やコスト低減を目指し、高性能林業機械の性能を最大限に発揮させる高効率・低コスト作業システムの構築があげられます。

現在は、フォワーダによる集材距離が長い箇所も多く、高効率・低コスト作業の効果の発現が十分とは言えない状況も見受けられることから、モデル的な路網作設を通じ、北海道の地形特性にマッチした作業システムの確立を目指しました。

取組概要

北海道の地形特性を生かすにはハーバスタとフォワーダを基本とする車両系作業システムが有効です。また、路網開設は、森林作業道（フォワーダ等が集材に使用よりも、林業専用道（トラック等が運材に使用）の密度を上げることで、集材コストを抑えられる可能性に着目し、2つの作業システムの比較を行いました。



調査地は、上川中部森林管理署管内のS43、57年植栽のトドマツ人工林、面積約61ha、平均傾斜10〜20度。

林業専用道新設（27年度）により既設林道を含めた基幹路網密度は、15m/haから52m/haへ向上。

今回の間伐（28年度）で採用した作業システムは、

①【森林作業道を作設しない区域】

林業専用道からの直接木寄せ又は、間伐の伐採列を高性能林業機械が走行するハーバスタ・フォワーダシステム（ハーバスタ2台、グラップル2台、フォワーダ1台、人員計5名）（イメージ図）

②【標準的な森林作業道を作設した区域】

森林作業道上での造材・フォワーダ集材（チェーンソー1台、グラップル3台、プロセッサ1台、フォワーダ1台、人員計6名）

調査結果

2つの作業システムの違いによる生産コスト（直接費のみ）と労働生産性の比較では、

作業システム別のコストと生産性

	生産コスト (千円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)
システム①	2.163	23.6
システム②	8.654	5.3

共に作業システム①の優位性が顕著に現れました。

また、今回の調査地全域（作業システム①II 57%、②II 43%）を一つの施業団地と捉えて、林業専用道を開設した場合（今回の実績）と、開設せず既設林道のみで事業を実施した場合の、初回間伐から主伐に至るまで一定の条件を設定し、木材収入からコストを差し引き、それぞれの利益を試算したところ、林業専用道の開設効果（集材距離が短くなる等々）によって、利益は約67%の増加が見込まれる結果となりました。

こんにちは 森林官です!

空知管理署北空知支署
深川森林事務所
首席森林官
(深川・恵比島担当区)
砂田 春男



農業王国、おいしい米・野菜・果樹のとれる街

深川森林事務所は、空知振興局管内の北部に位置する深川市・沼田町・北竜町にまたがる国有林野を管理しています。

3市町とも農業が主産業であり、米・野菜・果樹など北海道の農業王国の一翼を担っています。6月下旬より小玉スイカ・メロン・サクランボなどの果物がおいしく頂けます。

北竜町の丘には、約150万本のひまわりが7月中旬から8月下旬の1ヶ月間咲き続け、「ひまわりの里」として日本の広さを誇っています。



日本一の面積を誇るひまわりの里

沼田町は昭和6年から浅野・昭和の2炭鉱の操業と留萌鉄道の開通により一躍繁栄しましたが、昭和40年代になり相次ぐ炭鉱の閉山で、人口も減少しました。町内のホロピリ湖は平成4年完成した沼田ダムによってせき止められた



水源涵養機能を誇るホロピリ湖

人造湖です。

集水域のほとんどは国有林であり、町によって周囲の散策や展望施設が整備され四季折々の美しい景観が楽しめる場所となっています。

誘導伐とコンテナ苗植栽

平成26年に誘導伐（昭和4年植栽のトウヒ林）実施箇所、他署に先駆けてコンテナ苗植栽（ト

ドマツ）を実施し経過観察をしています。



コンテナ苗植栽試験地（北竜町）

初期型のコンテナ苗であり根がきちんと張れず枯れているものもあります。今後とも注意深く観察していきます。

高齢級人工林はこれから主伐期を迎えます。これまで、管内で誘導伐・植栽を実行した4箇所の成長等の経過を検証しているところ中です。その中で、伐採方法は帯状と群状のどちらがいいか、傾斜地に適した地拵の方法、植栽は2条植えか1条植えか、濁水防止の方策などについて、関係者と連携して検討していきます。

湖上流域の治山事業

ホロピリ湖上流域では、治山・治水事業を長く実施しており、今後も大雨

による濁水や崩落地等の防止や被害状況の把握に努めます。



ホロピリ湖上流域での治山事業

深川森林事務所

当森林事務所は、本来の深川・恵比島に加え、昨年より雨竜町を管内に含む恵比別森林事務所も管轄をすることになりました。

森林官と所員1名、臨時職員2名の計4名で深川・恵比別森林事務所管轄面積約2万6千ヘクタールを保全・管理しています。

今後とも前記3市町村に雨竜町を加えた4市町の自治体の関係者や地域の皆様と顔を合わせる機会を増やし、積極的に情報交換を行い、風通しが良くなるように努めていきたいと思っております。

各地からの便り

夏だ！森で遊ぼう！学ぼう！

詳細は

森もりスクエア

検索

奥尻島で森林教室

平成29年7月29日(土曜日)、奥尻町の奥尻ファミリーパークにおいて、奥尻町教育委員会主催の「奥尻森林学校」が開催されました。「豊かな島、奥尻が育む樹木について、親しみながら学ぶことで、子供たちの体験活動を図るとともに、郷土を愛する心を育てる」を目的に、奥尻町教育委員会からの依頼を受け、檜山森林管理署職員が講師となり、森林についての説明や公園内の木のはかり方・森のビンゴゲーム・種飛ばし体験を行いました。

(檜山森林管理署)

ピリカまつりで親子木工体験

平成29年7月23日(日曜日)、今金町のクアプラザピリカをメイン会場に、「周辺の美利河ダムとピリカ旧石器文化館を加えた3会場で開催された「ピリカまつり」に、渡島森林管理署は「親子木工体験コーナー」として会場の一角に国有林のコーナーを設け参加しました。コーナーでは木工体験のほか、木彫やパネルを展示して、間伐の大切さ、木材が環境に優しいこと等をPRしました。

(渡島森林管理署)

もくいく交流会inたいき

平成29年7月8日(土曜日)・9日(日曜日)の2日間、道東の大樹町で「もくいく交流会inたいき」を開催しました。当日は、日頃から野外体験活動に参加している十勝地区在住の小学生に加え中標津町の緑の少年団「なかしべつ冒険クラブ」の団員あわせて17名と引率者4名の計21名が参加しました。

(技術普及課)

新得町立屈足南小学校で森林環境教育

平成29年7月12日(水曜日)、13日(木曜日)、新得町立屈足南小学校の3、4年生(13名)を対象に森林環境教育を実施しました。7月12日には、伐採現場を見学する前の予習として林業の仕事や間伐作業の流れ等の座学を行いました。7月13日には、チェーンソーによる伐倒作業、ハーベスタによる伐採・枝払い・玉切り作業、グラップルによるフォワーダへの積み込み作業の一連の流れを見学しました。(東大雪支署)

朱鞠内小学校 夏の森林環境教育

平成29年7月19日(水曜日)、幌加内町立朱鞠内(しゅまりない)小学校において森林環境教育を実施しました。鞠内小学校舎裏にある「わんぱくの森」の散策を行いながら生き物を探したり、樹木や昆虫の観察を行いました。朱鞠内小学校は「平成29年度学校の森・子どもサミット」の発表者ということで、発表内容の復習も今回の活動メニューに取り入れました。

(北空知支署)

札幌水源の森づくり 2017

参加無料

花の苗
プレゼント

定山溪の森(国有林)は私達市民にとって豊かでおいしい水を育む大切な水源の森です。「札幌水源の森づくり」は、市民のみなさんと一緒に貴重な財産である水源の森を育み次世代へ引き継ぐ取組です。

- ・木の漢字パズル
- ・「森・水」等のクイズ

- ・きぼう(木棒)づくり
- ・パネル展示

ポット苗を作るよ！
来てね～



日時：平成29年8月26日(土曜日)
10時～13時終了予定(雨天決行)
場所：札幌市創成川公園・狸二条広場
(札幌市中央区南3条東1丁目)

北海道森林管理局は、広大で豊かな森林を国民共通の財産として、世代を超え、たさまざまにニーズにこたえられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命としております。

北海道森林管理局のホームページ内では、「公売・入札情報」「知床世界自然遺産」「エゾシカ対策」「森もり！スクエア」「イベント情報」等の各サイト内において北海道国有林の情報をお届けしております。

広報 「北の^{もり}森林 国有林」8月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

行事・イベント情報

「木に親しむ木育の集い」
日時：9月3日(日曜日)
9:00～12:00
場所：旭川市神楽岡公園